

## 西洋古代哲学史 第1回 (2017.04.13.)

1 「今まで、何語を学びましたか、これから学びますか」に対する回答は、以下の通り。

英語 (12名), ドイツ語 (7名), 韓国語 (1名), 中国語 (2名), ギリシア語 (5名), フランス語 (1名), ラテン語 (6名), 日本語 (1名)

5 全体で12名からの回答で、一人で複数回答しているはずですが、はじめから、母国語を省いて回答している人がいるので、英語と日本語は、全員が書いていけば、12名になるかと思えます。

この授業は、西洋古典語(ギリシア語・ラテン語)の知識を前提としないで行ないますので、外国語については、言及する際に、原則として、原典とその日本語訳を併記して示しますから、原典の部分を読めなくても心配はいりません。

10 2 「何故、この授業を受講するのか」

専攻分野の科目だったため／

教職で必要だったのと、高校の時、世界史でこの分野を学習して興味があったため／

哲学の全般的な流れを知りたかった／

たまたま木曜1コマが空いていた／

15 専門科目で興味があったから／

午前中に授業を詰めておきたかったのと、趣味です／

選択必修の1科目だったので／

学びたかったから／

古代哲学の系譜を知っておくことは西洋哲学を専攻するに当たって必要だと感じたから／

20 幅広い哲学を学ぶ、知るため(専攻を選ぶため)／

哲学に対するロマンのようなものを感じ、カッコイイと思ったから。哲学を学べば、カッコイイ自分になれると思ったから／

西洋古代哲学史について学んだことがなくシラバスを見て興味を持ったから、また、それに関する知識を身につけて自らの学びの一助にしたいと思ったから

25 3 質問等

Q.1 板書にあった「序説 pp. 1-6, 7, 8」の"pp"とは何ですか。

ソクラテスがそもそも著作を著していないことはどこからわかるのですか。

philosophia の ph の発音は フィ ですか ピ ですか。

A.1 "pp"ではなくて、"pp."が、pages の略号です。そして、"p."は、page の略です。

30 例えば、ディオゲネス・ラエルティオスの『ギリシア哲学者列伝』というギリシア語で書かれた書物には、著作を著した哲学者には、その著作名が紹介されているのに、ソクラテスの章には、著作がまったく紹介されておらず、いろいろな哲学者の著作を引用している、アリストテレスの著作の中で、ソクラテスについては、言行には言及されるけれども、著作については言及がないこと、そして、このことは、アリストテレス以外の場合も、ソクラテスの言行については述べられていたけれども、ソクラテスの著作について述べている書籍がないこと。そして、実際、ソクラテスの著作というものは、(偽作でもないかぎり)現在に伝わっていないことです。

φιλοσοφία(philosophia, ピロソ피아ー)です。これが、紀元前後になると、コイナー(『新約聖書』のギリシア語)では、「フィロソ피아ー」に変化してしまいます。

Q.2 プラトンやアリストテレス、ニーチェなど知っている哲学者もいましたが、シェリングなど知らない哲学者もたくさんいたので、ついていけるか少し不安でした。また本の仕組みなど詳しいことが分かって良かったです。

A.2 知らない名前が出てきたら、授業後に、自分で調べておけば大丈夫です。気楽に聴いて下さい。

Q.3 古代哲学で共通的な考え方のようなものがありますか。

A.3 どういう局面に関してかによって、変わってくると思います。

Q.4 資料などがネットで見られるのはとてもありがたいなと思った。ニーチェが少し出てきて嬉しかった。ソクラテスが自然科学について興味をもっていたというのは初めて知った。

10 ホワイトボードの字はなんとなくわかるのだが、うすい時に見えにくいのでどうかしてほしい。

A.4 そのときは、遠慮せずに、よく見えないので、書き直してくれ、と言って下さい。

Q.5 今日の哲学のイメージと昔の哲学(の)イメージに差があることに驚いた。昔の哲学はより自由で学際的で生活に根ざしていたのだとわかった。

A.5 よく言えばその通りです。が、専門分科(化)が進んでいなかった、と否定的に見ることもできます。しかし、哲学は、いつの時代も、専門に分かれても、分かれる前の全体を見る視点が必要でしょう(それを実行するのがいかに困難であっても)。それがないと、哲学は、他の個別学(領域学)と同列になってしまいます。

Q.6 古代でいう哲学を今しようとしたらかなり多くの学問を深く学ばなければならないというのはその通りだと思い、それは難しいことだなと思った。そのバランスを考えるのも大変だと思った。

A.6 現在では、完全に、とか、十分に、というのは難しいのはその通りです。実際、哲学が文学部に置かれて、文科系の学問と勘違いされていることが多いと思いますが、バランス、ということでは、哲学の分野で、「論理学」を開講していることからわかるように、半分は数学的、論理的な研究も、現代でも、哲学にはあることを忘れないで下さい。

25 Q.7 現代の宇宙に関する理論は、確かに専門知識を持たない人からすると、ただの思いつき・アイデアと大差ないように思いました。

A.7 物理学に限らず、何であれ、自分が専門家としてその内容を理解できないことがらについて、権威やその他の条件から察して、どこまで信用することができるか、という問題ですね(これはある程度、妥協しないと、実際の生活が困難になります)。

30 Q.8 表記についての話が興味深かった。本のつくりの話について、現在刊行されているものを実際に見て確認できたのがよかった。

A.8 著作権の切れた古い本をスキャンしてpdf化したものをプリントアウトして製本したものには、ページ付けが、偶数ページと奇数ページが逆になっている、なさけないものもありますね。

35 Q.9 授業おもしろかったです。ありがとうございました。昔の本のページの見方など興味深かったです。

好きな日本酒の銘柄を教えてください。

A.9 日本酒は苦手なのですが、なかなか手に入らないので一度しか飲んだことがないもので、これはすごいと思ったのは、「悦凱陣(よろこびがいじん)」(有限会社丸尾本店、香川県仲多度郡琴平町榎井93、杜氏/井上道孝(伊方))です。ちなみに、2000年当時で、大吟醸「生」(アルコール度数17.4)は、1.81は、10,000円、720mlは、4,000円。「手造り純米酒無ろ過生」は、1.81は、3,400円、720mlは、1,700円。「手造り本醸造」は、1.81は、2,050円、720mlは、1,150円でした。これは、もはや日本酒の概念を越えていて、日本酒ではない、という人がいるかもしれません。この近辺のものでは、呉の「千福」、安浦の盛川酒造の「白鴻」。

Q.10 シェーリング(ママ、シェリング)の哲学学科は大学に必要とされるべきでないという

主張には少し共感を覚えました。哲学をするときは無垢であることが大事だと思うからです。哲学というのが方法論や伝統によって縛られるのではなく、それらはいくまでも知識として持ち、今を生きる自分たちが自由に考えていくべきだと思います。

5 A. 10 当時の（19世紀の）哲学のあり方を批判して、シェリングは、哲学は創造的、あるいは、創造にかかわらなければならぬ、という意味で、artes liberalesの学部（通称、哲学部、学芸学部、ここでいえば、総合科学部、等々に）属するべきである、という意味のことを言っています。これを、現代の「芸術学部」と言ってしまうのは、ちょっと、問題があるでしょう。

10 Q. 11 学問が人の生活のためにあった時代から、もっと広く普遍的なものを求めるようになって自然科学が発達したと考えているが、その結果として最初の起りであった哲学が重要な意味を持たなくなったことに、疑問を感じている。また自然科学の発達は確かに人間に恵みを与えたが、心の部分では苦痛を与えることも多（ママ、大）いにある点を考えれば、自然科学にそれほど

15 A. 11 「普遍性」という表現に込められた意味に心を動かされました。もし、同じ質問を「普遍性」という表現を用いないでするとすれば、自分ならば、どういう言い方をするか、考えてみてください。

Q. 12 なぜ哲学を学ぼうと思われたのですか？ 哲学の良いところ、オスズの哲学者を教えてください。ニーチェに嫌われた哲学者に同情した。

20 A. 12 自分がやりたいことをやっていたら、それは、世間では、哲学というらしい、という順で、哲学をやろうと思って哲学をやったのではないと思います。（私の「哲学と出会えるまで」（C5）を参照してください）某ドイツ人によれば、フィロゾーフ（Philosoph, 哲学者）といえば、プラトンで、ヴィッセンシャフトラー（Wissenshftler, 学者）といえば、アリストテレス、という感じだそうです。私も同感です。ニーチェには、彼の好きなように、言わせておけばよいと思います（それがニーチェの才能だと思いますから）。

## 西洋古代哲学史 第2回 (2017.04.20.)

1 「今まで、何語を学びましたか、これから学びますか」に対する回答 (前回の数に追加, 集計).

英語 (14名), ドイツ語 (9名), 韓国語 (1名), 中国語 (2名), ギリシア語 (6名), フランス語 (2名), ラテン語 (7名), 日本語 (2名), アラビア語 (1名), タガログ語 (1名)

5 2 「何故、この授業を受講するのか」(追加分)

去年とれなかった単位を回収したいから／以前から哲学に興味がありましたが難しい, しきいが高いというイメージで近づけなかったから

## 3 質問等

Q.-1 1コマで集中力を発揮できるような早起きのコツを教えてください.

10 A.-1 私は、前期だけ週に1日、朝の1コマ目、尾道で論理学の授業をやっていますが、09:00開始の授業のために05:30には起きています。前日に早く寝るには、運動する(体を動かす、歩くとか)のがよいかもしれません。それに、授業中は、90分ずっと集中する必要はないし、できることでもないのです。ところどころ、集中して聴くとか、手を動かしてノートをとる、とかしてみてはどうでしょう。

15 Q.0好きな哲学者と傾向のちがう苦手な哲学者についても並行して学ぶのが大事ということなので、少しずつでも本を手にとってみたり調べてみたりしたい。

また、プラトンを ラトン と呼んだり、プラハを ラハ というのを高校の時の倫理の先生が授業のときに話してたな～と思い出した。

20 Q.0' Platon は発音する際は、先生の前では ラトン ということに、表記する際は、プラトンで宜しいのでしょうか。

A.0,0" 食事でも、野菜と肉とかを食べるように、哲学の傾向も、ということですね。

私と同じことを言っている先生がいましたか。正確には、子音も発音するべきなので、文字化すれば、~~ラ~~ラトン という感じで言ってもらえれば結構です。

25 Q.1 西洋古代哲学に興味があったのでこの授業を履修することにしたが、正直、内容が難しかった。哲学における語い力や知識がなく、理解が難しいので、自分で勉強しなければと思った。また、言語もよくわからないので、そのあたりも必要だと思う。せっかく興味がある分野なので、大事にしたい。

A.1 わからないことばや表現があれば、どれかひとつでも、この質問用紙で質問してください。徐々に知識を増やしてゆきましょう。

30 Q.2 今日頭がこんがらがってしまい、理解が進みませんでした。その原因のひとつとして、それぞれの人物のことを名前以外ほとんど知らないということが考えられるので、次の授業までにプロフィールを頭に入れておきたいと思います。

35 A.2 名前は知っているが、どういうことを言っているか知らない、という哲学者が何人も出てきた場合、一挙に全部調べておかなくてもよいので、毎回、少しずつ、調べてゆけばよいのです。授業に関係あるものとしては、ディールスと克蘭ツの『ソクラテス以前哲学者断片集』(Diels, W. und W. Kranz, 1951-52<sup>6</sup>, *Die Fragmente der Vorsokratiker*, Berlin.)です。日本語で読めるものとしては、以下のものがあります。

・廣川洋一, 1997, 『ソクラテス以前の哲学者』, 講談社学術文庫。

40 ・内山勝利編, 1996~, 『ソクラテス以前哲学者断片集』, 全5冊, 別冊1, 岩波書店。(これは、ディールスと克蘭ツの『ソクラテス以前哲学者断片集』の全訳)

・カーク, G. S. 他/内山勝利他訳, 2006, 『ソクラテス以前の哲学者たち』, 京都大学学術出版会.

Q. 3 「本当の意味」という表現はよく目にし, 今回「本当の意味の知」ということばで出てきましたが, それそのものの意味が気になります.

A. 3 この「本当の～」というのは, 「真の～」 「にせものでない～」ということですが, 5  
ここで, 「本当の～」と言っているのは, ヘラクレイトスで, ヘラクレイトスの立場からすると, 他の  
人たちが「知」だと思っているものは, ヘラクレイトスが考える「知」ではない, ということを言  
おうとしています. この場合は, ヘラクレイトスが名前を挙げている人たちは, いわゆる「博識  
(なんでも知っている, 多くのことを知っている)」が「知」だと思っているけれども, ヘラクレ  
イトスに言わせれば, それは「本当の意味の (ヘラクレイトスが考える) 知」ではなくて, 「本当  
10 の意味の知」とは, (単に, 何でも知っている博識も必要だろうが, それだけではなくて) 初めて  
出会った, これまでに経験したことない状況におかれても, その状況をただしく理解して, しか  
るべく行動し, 対処できるような判断力, 推理力, 考察, 思索の力である, というようなことを  
言っている, と解釈することができます. これは, あくまでも, ヘラクレイトスの立場からする  
「本当の意味の知」ですから, これに対して, 別の人は, ヘラクレイトスと言っているのは, 「本  
15 当の意味の知」ではない, というかもしれません. ですから, 「本当の意味の知」の「本当の意味  
の～」の部分に, 固定的に対応する意味内容がなにかあるわけではありません.

Q. 4 哲学者と詩人が近いものと古代で考えられていたことを初めて知りました. 哲学と詩は  
長く関係していたものなのでしょうか.

A. 4 ソクラテス以前の哲学者たちの中には, 著作を, ホメロスと同じ型式の韻文 (詩) で書  
20 いている人たちもいます (パルメニデス, エンペドクレスなど).

Q. 5 アリストテレスがデモクリトスを原子論者とみなしていたことについて. 実際には, デ  
モクリトスは倫理的なことを多く言っていたとありました. 当時, アリストテレスはデモクリト  
スの言論をほとんどすべて把握した上でデモクリトスを原子論者とみなしていたのか, と気にな  
りました.

A. 5 時代的には, アリストテレスは私たちよりもはるかにデモクリトスに近いので, 全部か,  
25 かなりのものを読んでいたと思いますが, アリストテレスが注目して, 書き記しているのは, デ  
モクリトスの原子論のうち, アトモン (原子) とケノン (空虚) のことなのです.

Q. 6 哲学があって, 学知があるのか, 知恵と学知を総合し哲学があるのか, どちらを想定す  
べきなのでしょうか.

A. 6 アリストテレスの立場からすると, ピロソピアー (哲学) = ソピアー (知恵) + エピス  
30 テーマー (学知), ということです.

Q. 7 古代ということだけあって文献が乏しいことが顕著だなと感じた. 断片的な資料から思  
想を明らかにするのはかなりの労力だろうと思った.

哲学の視野が学問全体 +  $\alpha$  に渡る (ママ, 亘る?) ののだと聞いて, 哲学の眺める大きな世界  
35 を感じた.

A. 7 その断片的な資料を蒐集したものが, Q. 2 & A. 2 のところで紹介した, ディールスとク  
ランツの『ソクラテス以前哲学者断片集』です. そして, ソクラテス以前の哲学者たちの中で, 何  
か, 著作した人の場合も, その著作そのものは伝わっておらず, それを読んだと思われる, 例え  
ば, アリストテレスが, 何か, 報告しているものを手がかりにするしかありませんから, その時  
40 点で, すでに, アリストテレスの解釈が入っている可能性があります. そこで, 重要なのは, 直  
接引用か, 間接引用か, ということです. 原著者の言葉を, そのまま引用する, 直接引用であ  
れば, かなり, 信憑性があると言えます. それでも, その哲学者の思想を明らかにする仕事は, た  
しかに, 大変な作業です.

ところで, 後半で言われている, その大きな世界は, 何色に見えますか?

45 Q. 8 今まで中・高で学習してきた哲学者の固定的分類は必ずしも正しいわけではないことが

わかった。アリストテレスから見た分類が現代まで固定化されている可能性があることは興味深い。もっとクリアな視点からギリシア哲学を見なければならぬのだと思う。そうすれば、タレスなど自然哲学者の本意が読みとれるかもしれないと思った。

5 Q. 8' どのような歴史にも、それを記述する者、枠組み・図式をつくる者がいて、それは古代哲学史についても言えることだと再認識した。

A. 8, 8' ですから、アリストテレスによる見方、枠組みであることを知った上で、他の哲学者についての記述を読む、ということが必要になるでしょう。

10 Q. 9 古代での哲学という言葉はやはり今のものとは違う使われ方であるなと思った。ソクラテスの本がないのはあえて書かなかったと聞いたことがあるが、本当なのか。タレス等ももしかしたらそうなのか、古すぎて残っていないだけなのかと思った。

A. 9 いずれにせよ、現代の私たちが読むことのできる仕方で伝わっていない、という事実は変わらないのですが、「書く」ということについて、考えてみる必要があるかもしれませんね。

Q. 10 哲学には、色々な分野がある（歴史、詩、自然など）のは知っていましたが、哲学者の中にいろいろな思いや考えがあったのだとわかり、興味深かったです。

15 A. 10 それぞれの哲学者にとって、何が問題だったのか、という観点でみていくとどうでしょうか。

Q. 11 時間がかかる分野だと思いますが、大変楽しく受講させていただいてますます興味がでてきました。

A. 11 何であれ、興味がもてる研究対象が見つければよいと思います。

20 Q. 12 苦手な学問も取り組んだ方がよいとおっしゃいましたが、先生は実際に取り組んでみて面白いと思った学問はありますか。苦手でも面白い学問がありましたら教えて下さると嬉しいです。

25 A. 12 「面白い」ということの意味をよく考えさせて下さい。夢中になって何かに取り組んでいる最中は、「面白い」もなにもないので、後から、第三者的に自分を反省すると、「面白かった」んだな、ということはあるの思うのですが。学問でなければ「面白い」と言えるものはあるのですが.....

## 西洋古代哲学史 第3回 (2017.04.27.)

Q.-1 5月1日休みになればいいのになあって思いつつ、ならなかったので行こうかなと思います。

授業内容で質問しようと思っていたことがあったはずなのですが、思い出せないのでまた思い出したら聞きます。

A.-1 思い出したら、いつでもどうぞ。

Q.0 他大学で論理学の授業を持たれているとのことでしたが、広大文学部は夏期集中講義で論理学がありますよね？ どうして赤井先生が教えないのですか？

A.0 尾道大学で赤井が担当している「論理学」は、教養科目として開講しています。広島大学文学部では、学部の専門科目として開講しているので、分析哲学や論理学が専門の関口先生にお願いして、専門科目として開講しています。もっとも、数年前に、一度だけ、他所の大学から先生をお呼びする予算を取り上げられたとき、赤井が集中講義として、ここで「論理学」をやったことがあります。

もっとも、上述の論理学の内容は、主に、20世紀前半に展開された記号論理学ですから、古代・中世哲学史担当の赤井ではなくて、近現代担当の教員が2人もいるのに、なぜ、その人たちがやらないのですか？ という疑問は生じませんか？

Q.1 色々と文献を紹介してもらえたのが良かった。それぞれ厚かったり難しかったりで手に取りづらいものも少なくなさそうだったが、ぜひ1冊でも触れてみたい。

毎回、コメントシートのフィードバックがプリントと口頭を通して行われるのがとても良いと思う。質問の思いつき方など、ヒントにたくさん出会える。

A.1 まず、図書館で探して手にとってみて、本とも出会ってください。

Q.2 哲学とは、世界は何からできているか、という疑問から始まったと聞きます。多くの哲学者たちもそうとうの考察をかさね、そこからさまざまな論理が生まれたでしょう。しかし、私は哲学を学ぶ立場ではありますが、世界は何からできているのか、というのは本当に物質的な疑問だったのでしょうか。それとも、自己確認のための疑問だったのでしょうか。

Q.2' タレスが万物の原理を水に求めた理由(根拠)はあるのでしょうか。

A.2 2' この問の意味を理解するためには、物質的なことを問うている、と決めてかかるのは危険です。何を問うているのか、オープンにして考えないと、問の意味をつかみそこなうかもしれません。「世界は何からできているか」という問が、物質的な構成要素を問うていると理解するのは、ある先入観によっています。構成要素はかならずしも、物質的なものであるとはかぎりません。この問題に着目したアリストテレスでさえ、必ずしも、物質的なことだけを問題してないことがテキストを読めばわかるでしょう。翻訳やその解説では、ショーペンハウアーが言っているように、他人の解釈を読まされるだけです。原典(この場合、ギリシア語)に即して理解するように努めましょう(限界はありますが)。

Q.3 「本当の——」という表現が「偽の——」「現在は望ましい姿とははずれた——」を表現しているということに何かシククリする感覚を覚えました。

ところで「偽」と呼ばれたとあるものは、本当に「偽」なのでしょうか。

私はいわゆるオタクなのですが、人が演じるものの原作に存在しないキャラクターにハマっています。そのキャラクターのファンはほとんどの人はその俳優のファンになってしまっていますが、それは「本当の意味」でキャラクターのファンではないと考えていました。

考えとしては以下の図の通りです。

[手書きの図]

俳優のファンになるというのは偶像崇拜だと思います。しかしながら、私は「偽」と切り捨て

るファンは本当に「偽」なのか、先生はどうお考えですか？

A.3 「偽」というのは、「真」と対になっている、論理学の用語でもあります（日常的にこれとは違う使われ方もしますが）。ある命題（主に、平叙文で「～は・・・である」）が表現している内容が、現実と一致してれば、その命題は「真」とされ、一致していなければ「偽」とされます。  
5 「今日は晴れである」という程度の命題ならば、現実の天候がどうであるかについては、多くの人の意見がくい違うことはないと思いますが、あるキャラクター（これは、命題ではないので、強引に命題化すれば、「このキャラクターは・・・を表してる」となるでしょうか）が、何を表しているかは、それを見る人によってそれぞれ違うでしょうから、それぞれの人にとって、そうだと思うものが「真」であり、そう思われないものが「偽」と言わざるをえないでしょう。

10 Q.4 「西洋古代哲学」の講義に、中世～近代の哲学者の名前がたくさんでてきて、紀元前の人々の思想や言葉が千年、二千年経っても影響力を持っているとは凄いと思う。

講義では西洋の哲学者はしばしば登場するが、中国、インド、日本などの哲学者はあまり出てこない。日本における学問の発展には、インド、中国から伝わった仏教や儒教が大きく関わっているように、西洋からの影響はあったのか知りたい。日本と中国の交流はかなり古くから存在するが、日本と西洋の交流は、室町時代末期ごろから本格化し、キリスト教が伝来した。その後は  
15 キリスト教の影響もあったと考えられるが、それ以前はどうだったのか。また、キリスト教の思想に西洋古代哲学の影響はあるのか。

A.4 「キリスト教」といっても一様ではないので、いつのどこの「キリスト教」か限定しないと、学問的に意味のある議論はできません。が、最後の問については、西洋中世のキリスト教  
20 であれば、私の「西洋中世哲学史」の考察対象のひとつでもあるので、そちらを聴講して下さい（中世哲学は、ヘブライズム（ユダヤ・キリスト教）とギリシア哲学が出会ったことから成立している、ということです）。

問の前半については、日本へのキリスト教伝来以降、キリスト教禁令までは、ヨーロッパへの報告文書などで記録が伝わってたりしますが、それ以前となると、私にはわかりません。記録を  
25 みつけるのが難しいのではないのでしょうか。ただ、そういう研究をしようとする日本史の研究者は、当時のポルトガル語、ラテン語なども読めなければなりませんから、頑張ってください（実際、日本でラテン語を学び、ヴァチカンにまで行ってラテン語で意思の疎通ができた日本人の少年がいたようですから。天正の少年使節のその後は、どれくらい史実がわかっているのでしょうか）。

質問にはありませんが、明治以降のことについては、最近、ようやく、研究が公表されつつあるように思いますが、1942年初版の研究書が、2008年に復刊され、これを読んで、学術書とは  
30 こういうものでなければ、と感動しました。日本語を読む読解力がなければ十分理解できませんが、図書館にあるはずなので、手に取って読んでみて下さい。

・麻生義輝、2008(初版、1942),『近世日本哲学史』,書肆心水。

また、誤植、変換ミス（私の文書にも多い）があるので、感心しませんが、上記の麻生さんの  
35 本より、気軽に読めるのは、雑誌論文ですが、次のものがあります。

・宮永孝、2010、「西洋哲学伝来小史」、法政大学社会学部学会『社会志林』57(1-2), pp. 1-110.

明治以降に西洋から哲学が日本へ伝えられたことに関して重要なことは、それ以前は、「哲学」ということばもなかった、ということです。みなさん、ご存知のように、philo（愛すること）sophia（知恵を）を日本語に直訳すれば、どこかの県の名前みたいですが、「愛知」でよかったのに、  
40 と思いますが、幕末から明治初期に、何人かが、日本語訳を試みて、その後、なぜか定着したのが、「哲学」という意味不明の言葉なのです（やれやれ）。

中江兆民は、philosophie（フランス語）を「理学」と訳し（中江篤介『理学鉤玄』明治19）、西周は、ヒロソヒ philosophy をはじめは「希賢学」とか「希哲学」と訳していたようですが、なぜか「希」がとれて、「哲学」となり（『哲学字彙』明治14）、現在に至っています。兆民の「理学」は、  
45 philosophie の訳語としては使われなくなり、理学部や理科のように、science の訳語として使われ



るようになります（例えば、「物理」というのは、「ものごとわり」ということでしょうか）。西周が「希賢学」とか「希哲学」とか訳したのは、「希賢」とか「希哲」という表現を、「太極図説」から採ったらしいとされています。詳しいことを知りたい人は、前掲の論文（宮永論文の表題は、「西洋からの哲学伝来小史」と読むべき）と麻生さんの研究書（この書名も『近世日本における哲学史』でしょう）を参照のこと（中江兆民と西周の著作も読んでね、結構、明治期の日本語の読解力が要りますが）。

そして、それ以降、西洋的な「哲学」という言い方で、印度のものは、「印度哲学」、中国のものは「中国哲学」というような名称をつけたわけですが、そんな名称をつけられるずっと以前から、インドにも中国にも独自の思索（これが、哲学といえるかどうかは別問題）があったわけですが、それが20世紀も後半になって、インドにも中国にも「哲学」と名付けることの不適切さを感じられて、「インド学、インド思想」「中国思想文化学」のように名称変更が行なわれたのでしよう。と常時に、「西洋哲学」は「哲学」とだけ言えばよいのであって、「西洋」をつけると、かえって余計な誤解を引き起こすことにもなるのです。

Q.5 前から思っていた印象ですが、アリストテレスは他の哲学者を俯瞰的に見ているように感じます。

叙事詩、叙情詩の違いが高校の時よく分かっていませんでしたが、今回の講義で納得しました。

Q.5' アリストテレスは広くいろいろなことについて考えているなと思った。

（詩的に文章で本を書いた哲学者もいたので）文学、詩と哲学の関係については少し気になるなと思った。

A.5,5' アリストテレスは、『形而上学』A巻（第1巻のこと）で、自分に至るまで（プラトンまで）の哲学史の振り返って、それぞれの哲学者を自分の立場から批判しています。こういうことをやる、ということ自体が、哲学と哲学史の関係を示していると思いますが、また、これがアリストテレスが万学の祖と言われたり、Wissenschaftler（学者）と言われたりする所以だと思えます。アリストテレスの『形而上学』A巻は、岩波の『アリストテレス全集』（出隆訳）でも、岩波文庫（出隆訳）でも、また、講談社学術文庫（岩崎勉訳）でも読めますが、おすすめは、中央公論の『世界の名著、ギリシアの科学』に収められた、藤澤令夫先生の訳です。

Q.6 「人間いかに生きるべきか」という問いは、ソフィストというより、人間全体の問いなのだわかった。だからこそ、詩人や、悲劇作者は哲学の研究対象となるとわかった。これは古代だけでなく、現代に置いてもそうなのかもしれないと思った。

個人的には、今日は授業内容より、レヴィナスについて興味を持ったのでググろうと思う。また、四原因説も知らなかったのでググりたい。

A.6 ついでに、「人間いかに生きるべきか」もググってみては？

もっとも、ググるよりも、レヴィナスも四原因説も図書館に行って、印刷媒体の書物を読んで調べてほしいのですが... どんな本を読むべきかをググるのは、まあ、仕方ないとして。そして、調べたことの典拠を必ず記すくせをつけてください。ググったら、そのURLと参照日時を、本なら、著者名、出版年、表題（書名）、（訳者）、出版地：出版社、ページ等。

Q.7 「知識」からは「事物を知っていること」のような印象を受けますが、ヘラクレイトスの言う「知」は単に「知っていること」だけではなく、それ以上に深い意味を持っていたのでしょうか。

A.7 よい質問です。「知識」は、*ἐπιστήμη*(episteme, エピステーメー)で、ヘラクレイトスの言葉では、*πολυματιή*(polumatie, ポリュマティエー)「博識（いろいろなことを多く知っていること）」ですが、これに対して、「(本当の意味での)知」と言われるものは、*νόος, νοῦς*(noos, ノオス, nous, ヌース)で、これは、理性や知性をはたらかせて、何かを察したり、思索したりする能力を表していると思われます。そして、これらは、一方だけではだめで、両方がそなわっていないと、「知恵 (*σοφία*(sophia, ソピアー))」にはならない、というのが、おそらく、アリストテレス

の立場です。

Q. 8 「書く」ということは目的として人に見せるだけでなく、自らの考察の一助とするために行われることもあると思います。実際、紙に書き出した自分の考えと会話するように（実際に自問自答として）文章を書いたこともあります。

- 5 A. 8 その通りですね。私も、ここ数年、Sibi Scribere（自分のために書くこと）というものを、ラテン語で書き続けています。また、ギリシア人にとって、「書く」とはどういうことだったのかは、授業で取り上げます。

Q. 9 最初の段階でラテン語ギリシア語を学ぶことが重要だったのでしょうか。ラテン語しか受講していないので残念に思っています。独学でも少し始めた方が良いでしょうか？

- 10 A. 9 この授業は、ギリシア語とラテン語の知識を前提しないで、必要があればことばの説明をしますから心配はいりません。原典の資料は、どんなものか見て触れてもらうために配布しているので、興味があれば、文字と発音くらいは少し学習しておくとういと思います。

Q. 10 ギリシア語→ラテン語になると、語の表記、読みが結構変わってくるのが面白かった。誰が初めにギリシア語→ラテン語を始めたのだろうか？

- 15 A. 10 最初ではないですが、例えば、ローマ人は、ギリシアから文物を輸入していますから、ギリシアの文化とローマ人が接触したときから始まっているのでしょうか。ローマの教養人はギリシア語を学んでいますし、ギリシア語→ラテン語という翻訳を頻繁にやっていたでしょう。例えば、キケロは、アテナイへ留学していて、ギリシア語ペラペラだったようですし、カエサルも、「ブルータス、お前もか？」という台詞が有名ですが、これは、シェイクスピアの『シーザー』では、そう
- 20 なっているようですが、スエトニウスの『ローマ皇帝伝』では、"*καὶ σύ, τέκνον* ;"(kai su teknon, カイ シュ テクノン (我が子よ、お前もか?))と、カエサルはギリシア語で言ったことになっています。

Q. 11 *Metaphysica* のテキストで、p. 982 l. 8(ママ, 982a8)に出てくる *ἐπίσ ασθαι* などに見られる *s* はシグマなののでしょうか。文中に出て来る点が気になるのですが。

- 25 A. 11 いいところに気がつきましたね。それは、ステイグマといって、*στ* の合字です。他にも、*ου* の合字も使われています。これは、文法の授業では教えていないこと（教科書にも載っていない）なので、別途、資料で説明しましょう。

## 西洋古代哲学史 第4回 (2017.05.01.(月→木))

Q.0 今回はカゼ気味で授業に集中できませんでした。申し訳ありません。赤井先生流の健康の秘訣などあれば教えてください。

A.0 朝夕の気温差があるので、ご自愛ください。「秘訣」とは言えないと思いますが、口に出して言わなくても、頭の中では、いつも駄洒落(ダジャレ)を考えていること、ときどき、シャボン玉をとばすこと(ときどき、学生も誘う)、ショージで売っている「黄姜」という生姜を買って来て、それをよく水洗いし(使わなくなった歯ブラシで)、皮を丁寧に向いて、刻んで、みそ汁とかもづくとか何かに入れて毎日食べること、パソコンで入力する他に、思いつきや気になることなど、なんでも、A5版のルースリーフのノートに、日付とともに、万年筆で書くこと(多い日は、10ページくらい書きます)...

A.0' 今日は90分を通して体調が悪かったです。原因、不明です。特に長期休暇明け等ではないのに不思議でした。

A.0' 四月末から、気温が上がったり下がったりで、私の周囲でも、(くしゃみではなくて)咳をする人が一時的増えた印象があり、体調を崩している人がいるようです。無理せずに、自分のペースで受講してもらえれば結構です。

Q.1 単語の日本語訳を参考に訳の並べかえを行うエクササイズ(?)が新鮮だった。

Q.1' ギリシャ語を日本語訳するのは難しいと感じた。(講義を受けていないというのもありますが...)

Q.1'' 哲学的な文を訳す時、日本語で理解できそうなものでないと、訳しにくいものだなと思った。

A.1, 1', 1'' 当該の箇所は、強引に、語句を一対一対応させて、ギリシア語から日本語に訳したので、実は、本来の翻訳としては無理があるのです。しかし、一般に、哲学史の本などで、日本語で、「必然的」という、一言で片付けられている箇所が、アリストテレス自身は、「(今あるのとは異なる)他の仕方ではあり得ないことがら」と言っていることを知って欲しかったので、そういう訳し方を、体験してもらったわけです。

Q.3 アリストテレスの学問の領域区分のお話の中で、蓋然的对象(今あるのとは異なる他の仕方でもありえること/もの)に関して、殺人を例に挙げて教えてくださいましたが、私には「行為そのもの」が他の仕方でもありうるのではなく「まわりからの評価」が他の仕方でありうるように感じられました。

A.3 アリストテレスは「まわりからの評価」が「行為」を定義する(少なくとも)一因となっていると考えていたのでしょうか。

A.3 今あるのとは異なる他の仕方でもありえる、蓋然的なことがらは、価値判断(よいとかわるいとか、善悪、それに、美しいとかそうでないとか、美醜)の対象になるので、その判断(まわりからの評価)をする主体が想定されるのは、その通りです。そして、対象を固定して(例えば、殺人)、それに対する判断の違い(例えば、善と悪)に着目するか、同じ判断に固定して(例えば、善)、それに対応する行為(例えば、殺人と救命行為)の違いをみるか、という問題設定の仕方の違いはあっても、アリストテレスが問題にしている事態は変わらないと思います。

蓋然的なことがらに、praxis(プラークシス、実践、行為にかかわること)と poesis(ポイエーシス、制作、制作にかかわること)の区別がありますが、アリストテレスの分類では、「実践、行為にかかわる」のほうは、その「行為」そのものが(学問が関心をもって考察する)対象であり、その行為の結果、生じるであろう、物理的事物(もの)は、二次的にしか問題にされません。アリストテレスの場合、倫理学(人柄についての学)と政治学(ポリスについての学)は、「よく行なう」という「行為」そのものに焦点が当てられ、考察対象になります。それに対して、「制作、制作にかかわる」のほうは、その「制作」の結果、制作された作品そのものの良し悪しが問題にな

ります。そして、先の「判断」「制作」の場合、クラスみんなが、それぞれ、異なるゴジラを粘土で作ったとき、そのどれもが、微妙な味わいがある「よい、美しい」と判断されたとします。そのとき、「判断」（まわりからの評価）は、同じく、「よい、美しい」ですが、それに対応する、作品（制作物）は、それぞれが、他のものとは異なる他の仕方であり得ている、というわけです。

- 5 Q. 3' 勉強不足なので間違えたことを書くかもしれません。アリストテレスは普遍的な「善」の想定はしていなかった、或いは、必然的な「善」というものは存在しないと考えていた、ということでしょうか。

行為をするときには何らかの意志があつてのことでしょう。「殺人」をしようとする時、先生の例でいうと、戦争時の殺人は善、現代のような日常での殺人は悪だと、その行為は区分されることでしょう。しかし、その「殺人」という行為に対するイメージ、「殺人」する時の意識は普遍的に悪であるように思うのです。

ギリシャ人は「人がいかに生きるべきか」と考えていた、というなら、善悪等、倫理的な価値観からは切っても切れないように思うので、もし、普遍的な「善」を認めていないのならば、少し不思議です。

- 15 A. 3' アリストテレスが、(プラトンの描く)ソクラテスおよびプラトンと違うところは、「善悪」「美醜」などの価値判断は、多くの場合、大体の一致をみている(蓋然的)けれども、全く例外なく、常に一通りに決まる(必然的)わけではない、と考えている点です。人が何か行為するときは、そうするのが「よい」と(その時点では)判断して行為するわけですが、長い目でみると(in the long run)、それは「よい」行為ではなかったり、別の社会では「よい」とされなかったりする現実があるので、それはどうしてかを探究することが、アリストテレスにとっては課題となります。それで、実際に、『エウデモス倫理学』『ニコマコス倫理学』『政治学』『大徳学』など、相当量の講義録・文献が伝えられています。つまり、「よく生きるとはどういうことか」を追求し続けていたと思います。が、同時に、自然学や形而上学、論理学の研究も、行なっていました。アリストテレスの学問領域の区分で示した3つの分野のどれも手を抜かずに、全部やっている、と

25 Q. 4 アリストテレスの四原因説の質料と動から、万物は流転する、や、無常という言葉で連想した。形相と目的が原因というのはわかりにくいですが、何となくは理解した。

- A. 4 「原因」という日本語の意味と、アリストテレスが言っていることがどれほど、一致しているかにもよります。「形相」が原因である、という場合は、ある事物の構成要素(この場合は、これが原因)のうち、「型式」「姿・形」が「形相因」です。また、「目的」が原因であるというのは、やはり、ある事物が生じる場合、何のために、何を目指して、それが生じるのかが、「目的因」と言われ、これも、その事物にとって、その事物が存在することの原因のひとつとされます。

- 35 Q. 4' アリストテレスの四原因のうち、目的について、そのためのそれ、という言い方が、目的を指すことが頭の中で理解できなかつた。前者のそれと後者のそれはそれぞれ別のものを指すのでしょうか。

A. 4' 同一のものを指します。欧印語族の関係詞を、関係詞をもたない日本語で訳すときに、逐語的に訳すと生じる、日本語らしくない表現です(が、言語に忠実な表現ではありません)。

Q. 4'' アリストテレスにとって、四原因説の4つ全ての視点から考えること、そして、領域区分の観想的なテオリアーが一番大切だととらえましたが、その2つに何か関係はありますか？

- 40 Q. 4''' アリストテレスは観想的な方(自然学)が多いとあったが、自分的には人間についての疑問の方が興味があるなと思った。

A. 4'', 4''' アリストテレスには、『魂について(デ・アニマ)』や倫理学関係の(人間や人間社会に関する)著作も少なくありません。

- 45 Q. 4'''' アリストテレスは四原因説を唱え、そこから過去の哲学者たちを批判したのに、目に見える質料因と形相因だけで考えているものもあると聞き、矛盾しているのでは？ と思いました。

A. 4''' 「目に見える質料因と形相因だけで考えているものもある」の「もの」が何か、わからないので、それ次第ですが、アリストテレス自身の考え方では、四原因の四つが対当なものであるとは考えていなかったように思います。構成要素としての「質料」と、それ以外、という大きな区分があつて、それ以外の中の、最も、重要で、目に見えるもの（可視的なもの）の場合、わかりやすいのが「形相」だったのだと思います。「動因」は、作用を及ぼした後、もうその現場にはない（いない）場合もありますし、「目的因」は、まだ、実現していないので（これから、それへと至る目的）、未来のことがらなので、これもやはり、その場には現れていないのが通常だからです。ですから、ある事態、出来事の現場に着目すると、「構成要素」としての「質料」と、その型式、姿・形としての「形相」だけを、アリストテレスが語っても、四原因説と矛盾しているとは言えないのではないかと思います。

Q. 5 アリストテレスの「知」についての考えは、中国の儒家、孔子の論語（ママ、『論語』）の中にある「学びて思わざれば～」の考えに似ていると思いました。

A. 5 アリストテレスの「ヌース+エピステーメー」からも言えますが、むしろ、ヘラクレイトスの Fr. 35（断片 35）と Fr. 40（断片 40）から、読み取れる考え方ですね。ご指摘の箇所は、『論語』為政第二（第二 為政）の十五ですね。

子曰、學而不思、則罔。思而不學、則殆。

子曰く、学びて思わざれば、則ち罔（くら）し。思いて学ばざれば、則ち殆（あや）うし。

老先生の教え。知識や情報を（たくさん）得ても思考しなければ（まとまらず）、どうして生かせばいいのかわからない。逆に、思考するばかりで知識や情報がなければ（一方的になり）、独善的になってしまう。（加地伸行訳）

子曰く、学びて思わざれば、則ち罔（くら）く、思いて学ばざれば、則ち殆（うたが）う。

先生がいわれた。「ものを習っているだけで自分で考えてみないと、まとまりがつかない。考えているだけでもものを習わないと疑いがでてくる」（貝塚茂樹訳）

貝塚版の訳註によると、最後の「殆（うたが）う」のところは、朱子の新注では、あやうし、不安、ととるが、古注では、怠、つまり「つかれる」と読んでいる、という。ここでは、王引之にしたがつて、「疑う」と読んでいる。貝塚版では、さらに、カントに言及して、経験論と合理論の両面が必要である、という説明をしています（ちょっと、文脈が違うと思うけれども）。他にも、気になる人は、宇野哲人訳（講談社学術文庫）、金谷治訳（岩波文庫）はどうなっているか、調べて下さい。この箇所については、荻生徂徠（『論語微』）は取り上げていないようなのは残念です。

Q. 6 4月の始めころは、アリストテレスについて全然理解できませんでしたが、講義を受けているうちにだんだんアリストテレスの考え方などがわかるようになりました。

Q. 6' アリストテレスの考える、哲学の祖としてタレスを挙げる意味がわかった。また、タレスの言う「水」が単なる物質ではない、という視点に面白味を感じた。

水というと、水素と酸素から構成された分子のかたまりであると、先入観から考えてしまうところは、中世の神を信仰していたものと近いものがあるのかもしれないと思った。（実際に水素原子と酸素原子を見たことはないの...）

Q. 6'' アリストテレスの水のとらえ方をお聞きして、原本読まなければと感じました。さしあたって訳本から始めてみようと思います。

A. 6, 6', 6'' 講義を受けてもらった甲斐（かい）があります。次に期待したいのは、講義を受けて、なるほど、わかった、と満足せずに、赤井の言っていることは、ほんまかいな、と思って、翻訳でよいですから、アリストテレスの著作の該当箇所を自分でも読んで確かめることです。OPACでアリストテレスの著作の所在を調べて、さあ、図書館へ行きましょう！

Q. 7 問いをオープンにするというのは、様々なものごとを考える上でやろうやろうとしてきたことなんですが、改めて考えてみるとやっぱり価値観が染みついているので難しいことだと思

いました。

A. 7 他人の発想を理解しようとするとき（多くは、テキストを読んで理解するとき）、なるほど、そうか、と理解したつもりになっても、自分のこの理解であっているだろうか（自分が思ってもいないことを言っているのではないだろうか）と意識することと、その場ですぐに理解できないときも、その疑問や問題を持続してもち続けること、このふたつが必要でしょう。

Q. 8 先生はラテン語の論文を書かれたとおききしましたが、その際の審査は、どなたがなさったのでしょうか。日本人の方ですか。

A. 8 日本人です。古代・中世担当の先生、カントが専門の先生、デカルトが専門の先生の3人でしたが、全員、学部の頃から哲学出身で、担当科目とは関係なく、英・独・仏・ギリシア・ラテンができる先生方でした。

Q. 9 哲学の区分についてのお話がありましたが、文学部のコース（人文学科及び）専門の固（個？）有名がわかりません。広大では英文でどのように表記されるのでしょうか。

A. 9 名称変更が頻繁にあるので、少し前の名称が（何を言っているのかはわかるけれども）、正式には通用しません。注意すべきは、学生（学部生・院生）の集団を指す名称と、教員の組織を表す名称は別だということです。以前の名称でいうと、「講座」（今は、ユニット？）は、教員組織の名称なので、学生には使いません。また、「学科」、「専攻」、「コース」、「分野」などは、学生（の集団）に関して用いる名称で、教員は、それらの授業を担当するけれども、所属するものではありません。また、学部や大学院によって、これらの名称のどれかを使っているので、全学で一致しているわけではありません。例えば、現行の制度では、文学部には、「人文学科」はありますが、「専攻」はありません。大学院文学研究科には、「学科」はなく、「人文学専攻」があるだけです。そこで、まず、日本語で、各自が所属を正式に記述すると、どうなるのか、わかりますか？このことは、学生にかぎらず、わかっていない人が結構います。例えば、次のようになります。

広島大学文学部人文学科、哲学・思想文化学コース、西洋哲学分野（所属）B170000X 空又赫蔵（そらまた・かくぞう）

専門として勉強しています、という日常語のつもりで、西洋哲学を専攻しています、というのは、かまいませんが、もし、履歴書のような書類に、「西洋哲学専攻」と書いている者がいれば、私が人事採用担当者ならば、その時点で、不採用にします。レポートや卒論に、そう書いてくる者がいれば、すぐには不可にせず、修正することを要求します。

さて、お尋ねの、外国語表記の件ですが、以前より、一層、わかりにくくなっています。

Hiroshima University, School of Letters, Philosophy and Thoughts(Course), とここまでの、哲学・思想文化学コース、までの表記。この後の分野名は、まだ、Web上に記載されていないので、私なら、分野名は、Philosophy (and History of Philosophy) とするところですが、たぶん、Western Philosophy とされるのでないでしょうか。なんだか、カウボーイが出てきそうですね。イエ〜イ！ウエスタン！

Q. 10 先生が執拗に「西洋哲学」という名称を「哲学」に変えようとしている理由をようやく理解しました。

いつも不思議なのですが、「希賢学」「希哲学」という名前をつけられていた学問が「哲学」という何をしているのか字から想像し辛いものに（どうして）なってしまったのでしょうか。

A. 10 どうしてでしょうね（西周『百学連環』など）。中江兆民の訳語「理学」が使われなくなったのもどうしてか、ということと合わせて、解明して下さい。次に、名称変更する際には、いつそのこと、「希賢学」とか「希哲学」に変更したらどうでしょうか。この授業も、「西洋古代希賢学史」とか「西洋古代希哲学史」になりますね。でも、「希賢学演習」を受講した学生が授業アンケートで、「希賢学」の演習を受講したのに、賢くならなかった、と言ってきそうです。「希賢学」だけに、ちょっと「危険」な話です。

## 西洋古代哲学史 第5回 (2017.05.11.)

Q.1 授業の内容とはそれですが、PCにギリシア語／ギリシア語 Polytonic 入力の設定をしましたが数種のキーボードに先生がいつも板書される文字がみつかりません。筆記体ですか？ ε は ε ですか？

5 A.1 ε は ε です。同じ文字を表す異なる書体があり、私も最初は、ε と書いていましたが、いつのころからか、ε を使うようになりました。どちらを使っても結構です。

Q.2 Hellas・・・ギリシア人のいうギリシア

Hellenic・・・(形)ギリシアの

Hellenistic・・・(形)ギリシア化された

10 ↓

Hellenism 時代・・・"ギリシア化された時代"ということを読んで、世界史の授業では名前しか習わなかった「ヘレニズム時代」の名称の意味が解けた。

15 Q.2' 高校のときに、ヘレネ（おそらく、自分たちのことで、神ヘレン(?)の子孫という意味だったように思います...)を習ったのですが、やはり Hellenic, Hellenistic と関係があるのですか？ この言葉が"ギリシアの","ギリシア化された"という意味だと初めて知りました。

A.2,2' ヘラスは、もともと、ヘレネによってつくられたテッサリアの都市の名称だったのが、やがて、ギリシア全体の呼称になったようです。

Q.3 文字に対しての考え方はとても納得できましたが、正しい情報を後世に残すには、やはり自ら書き残すことも大切なのではないかなと思いました。

20 Q.3' プラトンの自信がすごいなと思った。ここまでの自信を持てるほど学問に打ち込めることも、またすごいなと思った。

25 Q.3'' ソクラテス本人が書いて伝わってきたものはすごく少ないと聞きます。彼に刺激された人々や弟子を名のる人々によって、彼の思想が今まで伝わってきたのならば、もしソクラテス本人は、他人によって書かれてきたものとまったく違ったことを言おうとしたと考えられるところもあると思ってよいでしょうか。もしくは、ソクラテス本人が直接書いたわけではないために、意味が曲解されたりもするのでしょうか。

30 A.3,3',3'' 「正しい情報を後世に残す」という発想がそもそもあったのかどうか(トゥーキューディデースには、確かに、現在、自分の目の前にいるお前らには理解できないだろうから、いつか、わかる奴が読んでくれればよい、ということを行っている箇所がありますが、これは当時としては例外でしょう)、それは、かなり、近現代的な発想です。

ソクラテスには著作がないことについては、このQ.&A.の第1回(2017.04.13.)のQ.1&A.1を参照して下さい。

35 Q.4 プラトンが文字によることばは二次的であるというのは先生の説明でよくわかった。自分では理解しているつもりでもその文を書いた人の意図と違うという問題は、身近で、気づきにくいのかかもしれないと思った。

Q.4' プラトンは、書物または問答法による伝承は不可能と発言していますが、実際に問答法によって伝えることが達成できている書物は存在するのか疑問に思いました。

また、書かれた文字の立場になって読者を見るという先生の説明が意外すぎて、強く印象に残りました。

40 Q.4'' 古代ギリシア哲学者特にプラトンの「ものを書く」ことに対する考えはおもしろいと感じた。

たしかに文字は否定できないから正しく伝わらない可能性がある。だからといって書き記すことをしないことは、自分の思考が長く公正に伝わらないことになるし、文明という視点から見て

も退化といえるだろう。その点について、古代の哲学者はどう思っていたのだろうか、書物より伝承（口伝）の方を重視したのだろうか。

A. 4, 4', 4'' すでに、A. 3, 3', 3'' で言及したように、「正しい情報を後世に残す」という発想がそもそもあったのかどうかは、問題です。それは、かなり、近現代的な発想だからです。

5 また、授業で続けてみるように（プリント，pp. 7-8）、「文字は否定できないから正しく伝わらない可能性がある。だからといって書き記すことをしない」ということでもありません。現に、古代の哲学者の書いたものが、直接的、間接的に何らかの形で伝わっているからで、特に、プラトンの場合は、生涯にわたって、書くために相当の努力をしながら、同時に、書くことの限界を強く意識していたと考えられるからです。書いても伝わらないから、書くのやあ〜めた、というの  
10 とは、全く、正反対のこと（すなわち、努力して書き続けること）をしているからです。

Q. 5 先日、他学部の友人から、文学部の勉強は訳に立たないといったニュアンスのことを言われました。語学と歴史学については即座に言い返すことができたのですが、哲学について言葉が出てきませんでした。先生なら、どう言いますか。

A. 5 言うとなれば、次の二点くらいでしょうか。

15 ひとつは、「役に立つ」ということは、そもそも、どういう意味なのかを考える仕事をする、ということ。今、目に見えて役に立っていると思われることは、長い目で見ると、本当に役に立っているのかどうか、という問題を考えるということをするわけです。

ふたつめは、最初のことを関係あるのですが、「役に立つ」ということが、どういう意味なのかを考えるというひとつめの作業から、今、「役に立つ」と評価され、受け入れられているものとは  
20 違う（近視眼的に「役に立つ」のではなくて、長い目で見て「役に立つ」）価値観を提示する、ということ。しかし、そういうものは、早くても、30年とか50年（ものによってはもっと時間がかかる）経たないと、受け入れられるようにはならないので、その間、価値観の転換のために努力するという仕事は哲学だけのものではなくなるのですが。

25 こういう考え方のヒントのひとつは、M. ウェーバーの『プロ倫』（『プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神』）の「目的合理性」と「価値合理性」の区別にあります。翻訳で読めますから、読んでない人は読んで下さい。

Q. 6 資料の6ページの254行目の「個人の自覚、霊性が深くなった」とありますが、ここでいう「霊性」とは何のことでしょうか。

30 Q. 6' アレクサンドロス大王のギリシア化は、世界史でよく文化面が注目されていますが、アリストテレスを師にもつ大王が影響を受けた東方の思想などはあるのでしょうか。勉強不足ですみません。

A. 6, 6' ここでは、プロティノスやプロクスらのような、後に、新プラトン派と呼ばれることになる人たちを指して言っていますが、「人間の知識や経験を超えてそこに何かあると感じられるが、実体としてはとらえられない、神秘的な現象」についての洞察が、深くなった、という意味  
35 です。

Q. 7 ソクラテスの裁判に500人も審査員がいたのは、ソクラテスが問答法でコテンパンにしたお偉いさんたちがこぞって参加したのかなと少し想像してしまいました。

A. 7 田中美知太郎先生の解説によると、次のように言われています。

40 それは一種の民衆裁判なのであって、裁判官とか判事とか呼ばれている者は、抽籤によって選出された普通の市民にほかならず、その人数も、いろいろな記録によって見ると、少なくとも200人、多い時には2500人とか6000人とかいう例もあったらしい。したがってそれは、われわれの言葉では、陪審者とよぶほうが適当かもしれない。ソクラテスの裁判では、500人もしくは501人の陪審者が立会ったものと推定される。（田中美知太郎校註，1974，『原典 プラトン ソクラテスの弁明』，岩波書店，p. xiii.）



弁論のあと、まず、有罪か無罪かの投票が行なわれ (30 票差で、有罪になったらしい)、有罪となると、双方がどういう刑にするかを申し出て、そのどちらにするかについて、再び、投票が行なわれた、ということになっています。

5 Q. 8 213 行目に (a) Ionia – Italia 哲学 とありますが、イオニア哲学は聞いたことがあるけれども、この時期イタリアで行なわれた哲学はよく知りません。当時イタリアではどのような哲学がなされていたのでしょうか。

A. 8 前6世紀のパルメニデスやゼノンらのエレア派のエレアは、今の南イタリアです。また、ピュタゴラスがイオニアから、現在の南イタリアのクトロンに移住してから、南イタリアは、ピュタゴラス派の根拠地になりました。

10 Q. 9 先生は、血液型で性格が分別される、というのを信じますか？

A. 9 「分別される」というのは、ゴミのようですね。性格自体が、定量的な表現で表せないもので、何らかの相関関係を説明することはできるかもしれませんが、中世の体液による説明と同じようにおおざっぱな説明に留まるのではないのでしょうか。血液型ではありませんが、DNA の塩基配列を枚挙すれば何か言えるかもしれませんが。

15 Q. 10 授業とは関係ありませんが... 赤井先生はヘビースモーカーと存じますが、タバコの良いところは何かですか。

A. 10 値段が高いので、タバコを買わない人よりも多くの税金を払っていることになる (ヨーロッパほどではないとしても)。チェロを弾きながらでもすえるとか...

Q. 11 少し関係ない質問になります。

20 プラトンが「... それ (philosophia) は他の学問のように、けっして語られうるものではないからである。」と言ったのは、哲学をする中で言葉では表しきれないというような意味だとうかがいましたが、ヴィトゲンシュタインが「語りえぬものについては沈黙しなければならない」とのべたのも同じような意味だったのでしょうか。

A. 11 *Tractatus Logico-Philosophicus* の末尾の次の文 (命題 7) です。

25 7 Wovon man nicht sprechen kann, darüber muss man schweigen<sup>1</sup>.

7 Whereof one cannot speak, thereof one must be silent<sup>2</sup>. (tr. by Ch. K. Ogden and F. P. Ramsey)

これは、いきなり、この命題 7 をもってきて、「語りえぬもの」が何であるのか、「沈黙しなければならない」の「～しなければならない」が、沈黙の強制なのか、語ることの禁止なのか、語ることをあきらめるように誘っているのか、語法の助動詞 *müssen* の意味もはっきりしません。ただ、この命題 7 に先立つ、命題 1 から 6 までで述べられているような仕方で、世界、出来事、事態等を見てみると、命題 7 に至る、という構造になっているのが、『論理哲学論考』なので、命題 1 から 6 の全体 (つまり、命題 7 以外の本文) をどう読むか次第で、命題 7 の意味も変わってくると思います。ですから、ただちに、プラトンが言っていることと同じ、とも言えないでしょう。

日本語で読める『論理哲学論考』の翻訳や解説は、沢山でありますが、簡潔で優れていると思うのは、次のものです。

ルートウィヒ・ヴィトゲンシュタイン、2005、『論理哲学論考』、中平浩司 (訳)、ちくま学芸文庫。

<sup>1</sup>Ludwig Wittgenstein, 1922, *Tractatus Logico-Philosophicus*, London: Routledge & Kegan Paul, p. 188.

<sup>2</sup>op. cit., p. 189.

## 西洋古代哲学史 第6回 (2017.05.18.)

Q.0 今日の教室がとても暑かったので、ものすごくうとうとしてしまいました。(寝不足というのもあるかもしれませんが・・・)先生は、どうしても眠いとき、どうやって眠気覚ましをしていますか。

5 A.0 自分が授業を受けているときのように、ガムをかんだり、飲み物を飲んだりできないときは(会議中でも同様です)、自分でふともものあっちこっちをつねります。痛いので一時的に眠気を忘れます。が、後で見ると、何カ所も内出血したようなあとができます。いたあ〜い、です。

Q.1 プラトンが、書こうと努力した結果、書き述べない(ママ、書き表せない?)という結論に至ったことを聞き納得。日本でいう「筆舌につくしがたい」というやつなのだろう。

10 今日古代哲学者の本の時代による編さんを見ていったが、これだけ何度も様々な人によって写し、印刷されていれば写しまちがいや意識のしすぎがあってもおかしくないと改めて思った。

ところで羊皮紙からふつうの紙に素材が変わったのはいつごろなのだろうか？

A.1 紙と印刷術が伝わったのはいつごろだと世界史で習いましたか？

15 Q.2 小学生のころの作文が色々な人に書き写され1000年や2000年も残ってたらかなり嫌です。文学研究というものが今もなされているように、書いた本人の意図を追求したり、文字資料から情報をかき集めたりすることは書いた本人より後世の人が、ああでもない・・・こうでもないとしながらやるべき義務のように感じます。

20 Q.2' 文学上の有名人のちょっとしたメモ等が後世に残り、研究されまくって「この人の性格ろくでもないな」という感想が特に日本人の作家に生まれるので、その点においてはかわいそうだなと思った。

A.2 そういうことを調べて(調べるころまでは仕方がないけれども)それを自分の研究成果として公表する人(研究者)の品性が問われるように思います。自分ではものを書かなかった、ソクラテスは、やはり偉かった、とあらためて思います。しかし、凡人は、世に知られず、ひっそり過ごすのよいのかもしれないと思います。

25 Q.3 19世紀末にエジプトの砂漠でパピルス(papyrus)が見つかったのなら、これから先にも見つかる可能性があるかもしれませんね。少しわくわくします。

Q.3' ...また、パピルスが砂漠から状態の良いまま見つかったと知り驚いた。

Q.3'' 水草でできた紙があると知って驚いた。どんなものか調べてみようと思う。砂漠で発見されたらしいが、図書館のような建物があったのか、ただ砂にうもれていたのか気になった。

30 A.3,3',3'' 今後、見つからないとは言えませんが、そんなに頻繁にあることではありません。

Q.4 昔のギリシア語の書き方では全て大文字で単語ごとに区切られていなかったと、聞いたことがありましたが、実際に見てみると相当よみづらいように思われました。当時のギリシア人はみんな読みこなしていたのでしょうか。

35 Q.4' ところで、全て大文字で、単語の区切り屋や、アクセント記号もなく書き並べられている文章は、ちょうどひらがなだけで書かれた日本語の文章みたいで少し親近感を感じた。

Q.4'' ギリシア語は一応勉強したが、写本の文字はわかりにくく、単語が空白で区切られていないので、判別したり読んだりするのは大変だろうなと思った。

40 Q.4''' パピルスの時代の人々も、パピルスが長くはもたないということを知っていたから書くということを重視していなかったのでしょうか？パピルスだとまきものしかできず、読み手もわかりずらいだろうし、書き手もそうであったように思えます。パソコンでEnterなしで延々と続く文、みたいな感じだったのでしょうか。

だから、バイブルのように、Codexで書かれれば、求める情報を探しやすく、保存もきくようになってからは、多くの人々が自分の考えを本にしはじめたように思えます。

Q. 4”” プラトンの書かれたものに対する考え方、哲人を他の文筆家との違いに対する考え方はおもしろいと感じた。本を読む（本との対話...? 自分との対話というべきかもしれないが）ことと、人との対話が違うことにも関係しているように思えた。

5 A. 4, 4', 4", 4''' 大文字だけで分ち書きされていないテキストの存在は、書かれたものが、現在の本のように、まだ読者が知らない内容・情報を知るために読んでもらうというよりも、すでに内容を知っている者が記憶を呼び起こす（想起する）手がかりとして書かれたことを示唆します。

また、プラトンにある発想で、思考する、ということは、自分自身との対話である、ということとも重要な関係があります。そして、この発想は、アリストテレスにも受け継がれています。

Q. 5 哲人と文人の話から、プラトンはやっぱりすごい自信だと思った。

10 Q. 5' プラトンの文字に対しての考えは、前回の講義でもふれられていたが、特に今回の p. 8 ででてきた内容は少し衝撃だった。

Q. 5” プラトンが自分の著した書物に対して、努力はするも限界と定年を感じていたにもかかわらず、多くの著作が残ったのはやはり文章への取組みとその量のおかげなのでは、と思った。

15 A. 5, 5', 5” プラトンの対話篇が残っているのは、ひとつには、アカデメイアという学園組織によって、研究され保存・保管されていた、という事情にもよるでしょう。

Q. 6 西洋哲学を Western ... というのは先生も言われたように違和感がありどこから見て,, 西”なのかと（日本を中心）感じます。Occident という言葉もでてきますが、広島大学の正式名称は特に決まっていらないのでしょうか。

20 今日の講義の中で「これはと思うテキストを暗唱することも良い」との事でしたが、何かおすすめのものがあるでしょうか。

子供の頃に読んだ本の後ろにソクラテスの「無知の知」という話がありましたが、その後人によって会社がちがうように思いました。おしえて下さい。

A. 6 以前の文書に使っていた表記は、Philosophy（哲学）と Western Philosophy（西洋哲学）です。私は、これを決める立場にないので、今、どうなっているのか知りません。

25 暗唱する文献については、自分で、これだ！と思うものに出会ってほしいと思います。人によってちがうと思いますから。

ソクラテスの「無知の知」は、むつかしくて、私にはわかりません。ソクラテスを取り上げる際に、考えてみたいと思います。

30 Q. 7 哲学を学ぶことは、自分の頑固さや偏見を減らしてくれる点が私にとって役に立つことですが、プロティノスの文を読んだ人が「いつ死んでもいいと思ってしまった」と思ってしまったということを知って、学ぶことでマイナスに働くこともあるのかな、と思いました。

A. 7 「死ぬ」という表現は、肉体という牢獄からの魂の解放という、プラスのイメージで言われていることなので（だからと言って、すぐに死ぬ、ということではありません）、プラスとかマイナスとかということが何を意味するのかを考える必要があります。

35 Q. 8 哲学は役に立つのか、への解答ありがとうございます。今度言ってみます。

ちなみに、語学と歴史学についてですが、語学が役に立つというのはその友人もわかっていたようです。歴史については、「今ここにいる全員が、今以前の記憶を失ったとして、次に何をすべきか本当に考えられるか。それをもっとひとく長い目で見れば世界が正しく回るために歴史学は必要。」と言ったら納得してくれました。先生は語学や歴史学についてどのような考えですか。

40 A. 8 そうですか。答えるというよりも、逆に質問になってしまうのですが、（実は前回から、気になっていたのですが）語学、とは言われているのですが、文学との関係はどうなっているのですか。また、歴史、史学については、そもそも、学問として成立するのかどうかから考える必要があると思っているので、役に立つかどうかという有用性についてまでは、まだ、考えが及びません。これからの課題の一つとして考えてみたいと思います。

## 西洋古代哲学史 第7回 (2017.05.25.)

Q.1 文字の読み違えられる可能性を言われていますが、言葉も又、主に、受け手の中で誤解や感違い（ママ、勘違い）によって成立している様にも思うのですが、いかがでしょうか？

A.1 成立している、というよりは、現実には、それで済まされている、と思います。書き手の意図とは違うよ仕方で、読み手（受け手）が読み取る、という場合、二通りあって、読み手がそうとは気づかずに誤読している場合と、わかっていて意図的に違うように読んでいる場合です。哲学史上、そういうことがあることを、例えば、次の本で知ることができます。

山内志朗, 2013, 『「誤読」の哲学 ドゥルーズ、フーコーから中世哲学へ』, 青土社。

Q.2 ラテン語の授業で紹介された、文献を整理するために良いのはTEX（テフ）ですか？ テキストファイルのことですか？

A.2 文献表（文献リスト）をつくるのが課題ですが、書式が問題なので、使用するソフト（アプリケーション）は、ワープロでも、テキスト・エディタでも何でもかまいません。TEXは、アプリケーションの一種で、もともと、UNIX用のものですが、他のOSでも使えます。

Q.3 引用の仕方の資料をいただきましたが、論文の書き方については学校、分野、先生などによって作法がそれぞれ違うものなのでしょうか。

A.3 微妙に違っていたり、かなり違っていたりもします。しかし、論文や原稿を提出する先（学会、大学、先生など）が、指定してくる書式に従って書く必要があります。特に指定がない場合は、Chicago Style や MLA などのルールに従っておけばよいでしょう。

Q.4 先生は、骨董品と言っても過言ではない本を、どのようにして入手するのですか？

A.4 古本屋（古書店）です。古本屋の古書のリストで見つけて注文したり、直接、古本屋に行ったりします（最近は暇がないのでほとんど行っていません、と言っても過言ではないでしょう）。Amsterdam の KOK Boeken (Oude Hoogstraat, Amsterdam) の2階とか（ここは2回行ったことがある）。

Q.5 初めて初版本を見ることができて、とてもおもしろかった。こういった本は数に限りがあると思われるのですが、どのように入手したのでしょうか。

A.5 これらが購入された経緯は知りませんが、大学と取引のある（輸入）業者を通じて、古書店から購入したのではないかと思います。

Q.6 古いアリストテレス全集の現物を見て残っているのはすごいなと思った。約200年でもかなりボロボロになっているので、もっと古い数百年前のものが失われるのもうなずけるなと思った。活字だったか飾り文字や細かい字で読みにくそうだと思った。

A.6 1831年刊のベッカー版『アリストテレス全集』のほうが、より古い、1578年刊のステファヌス版『プラトン全集』よりも、紙の劣化がすすんでいるのは、質のよくない紙を使っているからでしょう。

Q.6' 16Cの本を実際に見ることができ（しかも至近距離で！）本当に感動しました。

古ぼけた紙から、歴史の息遣いがきこえてくるようでした。ギリシャ語、ラテン語の知識や技術があればもっと楽しめたのかな？ 感慨深かったのかな？ と思いました。

A.6' 確かに、モンテーニュなども、こういう体裁の本を読んでいたのかもしれないと思うと、わくわくします。

Q.6'' 今日見せて下さった本のうちのギリシア後だけで書かれた本について質問なのですが、文中によくあった「||」←この記号はどういう意味なのでしょうか。

A.6 情報の句切りを表す記号だと思います。

Q.7 歴史学とは何か？ という問いは心に残りました。単にこの世界に何かが起きたか知るだけでなく、そこから見える人間のあり方を見定める学問かとも思いました。

Q.7' 赤井先生の歴史学についての考え方を聞いてそれも一理あると感じた。私は日本史を専攻している。私は歴史を学ぶことは現代を見つめ直し、考えることだと思う。歴史を考えること、学ぶことで、現代にある事象の原因、期限、変化を知れたり（ママ、知ることができたり）、現代にある、まだ明らかにされていない問題、課題を発見したりできる。これはどの分野を専門（ママ、  
5 専門）としていようと通じるものだと思う。（そもそも個別分野があったとしてもその事象、物が社会の一部である以上、それ単独で存在することはありえないので結局はその時代、社会の諸事象も考えなくてはならない。）そう考えると個別分野で1つの学問として成立することは同時に歴史学としても成立していると思う。

Q.7'' 私は歴史学コースですが、学問としての歴史を学びたいというよりは、単純にもっと詳しく知りたいという興味から、大学で学ぶ分野を歴史と決めました。よく言われることかもしれませんが、歴史には今に活かせる史実も時代に関係なく存在していると思います。

A.7 歴史をやっている人のほうに関心がなければ、期待されても、困るかもしれませんが、歴史学者にやってほしいことは、個別の分野の側からは、解明がすすんでいない事実関係を明らかにすること、です。

Q.8 ソクラテスの思想はプラトンが書き残し、プラトンのことはまた別の人が書き残しているが、他の人によって書かれたソクラテスについてのことと内容に矛盾があったりはしないのか。

A.8 あります。「ソクラテスの思想はプラトンが書き残し」ということですが、おそらく、プラトンがその対話篇に登場させているソクラテスは、そのまま、歴史上のソクラテスではありません（容貌とか、史実に基づいていることは多々あると思いますが）。例えば、プラトンの対話篇  
20 のソクラテスは、いわゆる、イデア論を語りますが、イデア論自体は、ソクラテスのものではなくて、プラトンの考えたものです。クセノポンの著作に登場するソクラテスとは、どうも様子が違うところがあるからです。かつては、バーネット=テイラー説とあって、プラトンの対話篇に登場するソクラテスを、実際のソクラテスとみなす立場もありましたが、今では、この立場をとる研究者はいません（と言ってよいでしょう）。現在では、特に、プラトンの初期対話篇に登場するソ  
25 クラテスをめぐる問題を扱う、Socratic problems という研究のジャンルができていくほどです（これは、広い意味で、プラトン研究に含まれます）。

Q.9 「死」についてですが、プラスの考え方は自分の中ではないもので驚きました。また、人間が牛やニワトリなどを家畜とみなすように神も同様に人間をそのような存在とみなしているという考え方にも驚きました。

Q.9' 死についての、家畜が勝手に死んだら飼い主は怒るだろうという話はいついつい笑ってしまいました。人間と神にもこれと同様の関係があるというのは、神を信仰していない自分としては、やはり納得はできませんでした。

Q.9'' 例えばの話の、家畜である牛が自殺すると人間は怒る、という関係が神と人間にもあった、というのは初めて知った。人が死ぬ時には神の許可が必要だし自殺はしてはいけないこと、  
35 という考えがある当時の人々にとっては、自殺大国といわれる今の日本はどう思うのだろうかと考えてしまいました。

A.9 家畜の例え話はともかく、若い世代の自殺が日本だけ増えていることについては、何か手を打つべきだと思いますが、その原因・理由の解明が急務でしょう。

Q.10 私は、英語やスペイン語の翻訳に時間がかかるので、先生の翻訳に対して「40分で2行  
40 でも良い」という言葉に少し安心しました。

日本語以外の言語を学ぶのは不得意なのですが、先生は、第2言語をいくつぐらい、どの程度のレベルで獲得していますか。

また、どのくらいの期間で永久記憶に入ったと思いますか。

A.10 『人文学のすすめ』を読まれましたか。

C5「哲学と出会えるまで」（『人文学へのいざない』初版より）とC6「学部生の頃」（『人文学  
45

へのいざない』第2版より)

「永久記憶」という発想はありませんでした。どんどん、忘れますから、辞書を引いてなんとか読めたり、読めなかつたりする、という程度です。

- 5 忘れるのは気にせずに、自分の専門に必要だと思ったら、どんどん、勉強して、いろいろな言葉を知りましょう。ちょっと、古いですが、図書館か、古本で探してみても、自分がやろうとしている外国語はどんなことばなのかをちょっと知るには参考になる本です。(私が高校のときから読んでいたのは、渡辺照宏先生の本です)

渡辺照宏, 1962(1976), 『外国語の学び方』, 岩波新書

梅棹忠夫, 永井道雄編, 1970(1979), 『私の外国語』, 中公新書.

- 10 新名美次, 1994(1997), 『40 カ国語習得法』, 講談社ブルーバックス

Q. 11 タレスや、プシューケーといった語は、高校時代の倫理で出てきたな、と懐かしく思いました。

先生が、哲学の中で、「これは倫理の学習として高校生に学んでほしい」と思う内容は、ありますか。

- 15 A. 11 「倫理の学習として」と言われると、うう〜ん、何がいいか、考えてしまいましたが、書き下しでよいから、『論語』、『孟子』、それに、中央公論社の『世界の名著』のシリーズの『原始仏典』と『大乘仏典』でしょうか。そして、「倫理学」ではなくて、むしろ、「哲学」という学問があることを知ってほしいです。私が高校生の時は、翻訳で、ショーペンハウアーの『パレルガ・ウント・パラリポメナ』を読んでいました。これもおすすめです。

- 20 しかし、何かこれ！ というものを示されて読むよりは、高校の教科書や、資料集に出てくる文献（抄訳や部分）のうちで、気になるものものもの（翻訳ですが）を、自分で図書館等で探して読む、ということをおすすめします。

## レポートの文体について（補足）[2016 年度前期・西洋中世哲学史 第 14 回より転載]

「よって」の意味については、すでに言及しましたが、一般に、接続助詞、接続詞の有無と、意味、ニュアンスの違い、というよりも、読み手に与える印象に配慮して下さい<sup>3</sup>。言い換えると、みなさんの年齢の人たちどうして通じる「ことばづかい」ではなくて、自分より年配の人に読まれることを想定して書け！ということなのです。

具体的な例をあげると、この Q. & A. でも、「ある意味」という表現が使われることがありましたが（実際、他の文献でもよく見かけます）、「ある意味」は、これ自体では、名詞であって、口語では、ドイツ語の 4 格（対格）副詞のように、副詞的に「ある意味では」とか「ある意味で」というイミで使われています。それなら、「では」や「で」を略さずに、全部書け！ということなのです。年配の読み手は、「ある意味」を、頭の中で「ある意味では」と補って理解しています。こういうことを読み手にさせるのは、読み手に charity を要求している、といいます。それが文学作品で、作者が意図して使っている手法であれば、それを使うのは作者の自由ですが、レポートや卒論などの学術論文では、余計なことであり、読み手に charity を要求するようなことをするべきではありません。そういうレポートを採点する立場に私があれば、減点します。この種の表現については、谷崎潤一郎の『文章読本』（中公文庫）を、まだ、読んだことがない人は、死ぬまでに一度は、それもできるだけ早いうちに手にとって読んで下さい。

次に、おそらくは、パソコンやワープロの漢字変換のせいで、やたらと何でも漢字で書く傾向がありますが、かつては、そして、いまでも、次のような原則に従って書いている人たちがいます。

動詞についてですが、動詞の目的語になる名詞が具体的な場合は、動詞も漢字で、抽象的な場合は、動詞は平仮名という区別です。例えば、次の例を見て下さい。

手に小旗を持つ。／ 寛容な心をもつ。

というように、です。この区別は、ある時期までの書き手によっては徹底しているので、他人の書いたものを読むときに、注意してみてください。ワープロやパソコンの使用が広まるにつれて失われつつあるのが実に残念な区別です。

なお、日本語の表記、表現、特に格助詞については、先に紹介した、

横井忠夫、1971、『誤訳 悪訳の病理 ミスを防ぐための  $\alpha$  から  $\omega$  まで』、現代ジャーナリズム出版会

の p. 150 などを参照。この本は、後に、違う出版社から再刊されていますし、図書館にも数冊あるようです。

<sup>3</sup> 例えば、「実際」「実際に」「実際には」は、全部、意味合いが異なりますが、使い分けられますか。自分で使う前に、他人が書いた文章に出てくる場合、これらを読み分けることから始めるべきですが、ついでに、みなさんが、この Q. & A. に書く表現の中で気になっていることのひとつは、「文」と「文章」を区別していない人がいることです。ひとつの「文」を「文章」と言っている場合が目につきました。「文章」は、いくつかの「文」が集まったもの、という定義があります。

## 西洋古代哲学史 第8回 (2017.06.01.)

Q.1 月より上/月より下 四元素 アエール などの中に「光」についてふれていないのは「光」=神という考え方なのですか。

A.1 アリストテレスがいう意味での、質料としての(構成要素としての)元素の中には、「光」ということは言われません。神でもありません。後に言及する、エレア派のパルメニデスは、夜と昼、闇と光、という対比で、「光」が言及されますが、その場合も、構成要素としての「光」ではありません。光は波ですから、構成要素として「光」を数えないのは、むしろ、現代的でさえあります。中世では、比喩的に「光によって照らされる」ことを取り上げる人たちがいますが(ロバート・グロステストの「光の形而上学」)、その場合も、構成要素としての「光」というよりは、作用やはたらきとして扱われているようです。「光」に言及するのは、啓蒙期の近世的発想ではないかと思います。(他方、聖書には、「光」が比喩的に語られています)

Q.2 フェニックスの学生を PHENIX(ママ, できれば, Phoenix) ASSISTANT と言われましたが、PHENIX(ママ, できれば, Phoenix) STUDENT ではないですか、Regular Student ですから。

A.2 Student の話はしていません。Assitant の話をしました。資料を参照。

Q.3 アエールというものが存在して、薄ければ火になり、濃くなると水や土になるという発想は、意外に思いました。

現代では物質はすべて原子からできていると考えられますが、それをふまえると昔の人の考えは現代のものと似たところがあるように思います。

A.3 現代の意味での実験や観察をしたわけではないのに、古い時代の考え方が、現代の考え方と同じか似ているということが、たしかにあります。

Q.3' アナクシメネスのいうアエールは火や風などとなって宇宙を構成するものであるということは、同じようにアエールがプシューケーを構成するというとき、プシューケーは火や風のような物質として捉えられていたのでしょうか。それともタレスのいう万物の根源としての水のように物質ではない何かとしてもアエールは構成出来るということなのでしょうか。

Q.3' よい質問ですね。「プシューケーは火や風のような物質として捉えられていた」というのとは逆に、火や風が物質としての側面以外も持っている、というように考える可能性がありませんか。そうすると、タレスの水のような、水とは言われるけれども、物質としての水でだけではない、ということと同じようなことになるのは、おっしゃる通りです。現代の我々の、物質か、非物質か、という二分法が通用しない考え方なのかもしれません。

Q.3'' 「アエール」という考え方は新鮮みがあり興味深く感じた。

ヘシオドスの神々から世界を考える方法は現代から考えるとアリストテレスの言うように考察するに値しないと思った。そもそも神話というものが誰によってどのように作られたかということを考えなくてはいけないだろうと思う。

A.3'' 神話(ミュートス)をどう扱うかは、難しい問題です。哲学としては、そのまま受け取ることではできないとしても、アリストテレスも完全に切り捨てているわけではない、という点が重要です。

Q.3''' 高校の時に、タレスは水を原理と考えていた など習ったので どうもその印象が強かったのですが、今回の講義をうけて、アエールの存在を知り、アエールの希薄さ、濃密さで水や土など あり方が変わるということが印象的でした。水などが一番小さな単位(?)と受けとめていたので、それらのもとになるアエールの存在は自分の中では衝撃的でした。

A.3''' タレスの水は、ある程度は、目で見えてわかる範囲の水が関わっている現象の観察に基づいているものだと思います。しかし、アナクシマン드로スのアペイロンにせよ、アナクシメネスのアエールにせよ、タレスのいう水ほどには、観察事実に基づくというよりは、悪い意味で、思弁的(speculative)である(つまり、頭の中で、空想したり、想像したりしているだけ)という



面がありますが、哲学として大切なのは、そういう現象を説明する工夫（理屈，原理）を考え出した、という点にあります。

Q. 3''' 元素とは違ってエーテル（アエール）は古代以後でも残って研究されてきたとききます。ボイルの真空実験のときも、ホッブズなどが取りあげたこともエーテルだったそうです。

5 エーテルは4元素と（最近の）科学的な常識ではあまり変わらないように思えますが、なぜエーテルは比較的最近まで残っていたのでしょうか。

A. 3''' アエールもエーテルも、その時代ごとに、また、それを考察する人によって、想定されている内容が異なるのですが、共通している点は、それが何であるかが、他の物質的なもの（あるいは元素）と同じようには明らかではない何かである（未知数のx）として、想定されている、ということではないでしょうか。そのことが、長い間、エーテルが論じられ続けた理由のひとつであろうと思います。

Q. 3'''' アエールという概念は興味深いと思った。日本語に訳せないような概念が出てくるのはおもしろいと思う。宇宙という言葉が出てきたが、そのころには宇宙があるとわかっていたのかと思った。

15 A. 3'''' 「宇宙」と言っているのは、「天」、「天空」、あるいは、「世界」でも、「自然」でもよく、当時のことばでは「万有」というのがあたっているかもしれません。現代の宇宙物理学のような「宇宙」を考えないで下さい。

Q. 4 哲学の分野では特に、抽象的な言葉が多く用いられるが、抽象的な概念、またそれに記号として付される言葉が生まれるとき、どのような仕方で行われるのか疑問に思った。また、その抽象的な概念が他者にどのような伝わるのかも疑問に思った。私はアエール（エーテル）と聞いて、物理学の分野から考えてしまったのだが、その物理の予備知識？ がなければ、自分はどのようにその語を捉えていたのだろうか、ふと思った。

A. 4 エーテルについて知っていることを、一旦、忘れて、はじめから、何かわからないものとしての「アエール」を知ろうとすることが必要でしょう。

25 Q. 4' 日本語ほど表現の幅が広い言語はないと思う。ただ、幅が広いということは、それだけ細かなニュアンスまで伝えることが可能ということだとも思う。日本語は、私の知る限り特殊だと思うが、日本語に類似した言語はあるのか。

A. 4' 是非、「私の知る限り」の幅を広げてください。

30 翻訳のことばとしては、例えば、タレスの「水」ですが、アリストテレスの『形而上学』で「熱そのものさえも水から生じ」と言われることから、タレスが言及している「水」は、必ずしも我々が想像している「水」(water)、物質的な「水」、つまり、化学的組成が $H_2O$ であるような「水」とは違うのではないかと考えられます。ですから、現代の日本語で「水」と言えば、冷たい液体ですけれども、タレスがいう「ヒュドール」は、確かに、目に見える形では、「水」なのですが、（我々からみれば、分子の運動である）「熱」を、もともと内にもっているのが「ヒュドール」である、

35 ということでしょう。例えば、海面や湖面から、霧か靄（もや）が発生するのを見て、水に、水の外部から熱が加えられて、蒸気が発生している、と考えれば、現代人風ですが、そうではなくて、もともと、「熱」を内にもっているのが「ヒュドール」から、「熱」が靄や蒸気の形で出てきている、と考えるのでしょうか。ですから、タレスのいう「ヒュドール」を現代日本語で「水」とだけ訳すのは、ほとんど誤訳ですが、他に訳しようがないのです。

40 （そして、実際、「元のもの」としての、タレスの「水」も、生命の原理（プシューケー、魂）でもあり、永遠で不死である、という意味で、「神的なもの」でもあるので、ますます、あの冷たい、物質的な「水」、つまり、化学的組成が $H_2O$ であるような「水」のことである、と考えることはできません。）

Q. 5 531行目の「真実」の世界観的な重み の世界観的というのはどういうことですか。

45 A. 5 「世界」をどう捉えているかをあらわす、という意味です。

Q. 6 日本には八百万神がいますが、ヘシオドスもそれくらい個々のものに神の存在をみていたのでしょうか。

神話と哲学と科学は紙一重だと思っているので、アリストテレスの評価は中々辛口だと感じました。

- 5 A. 6 ヘシオドスが説明しようとした限りの、自然の現象や事物については、そのそれぞれを神々の名前で呼んだということは、『神統記』に描かれているところから知ることができますが、それ以上のことについては、なんとできません。

後半については、物理学者が書いた一般向けの新書で、次のものがあります。

池内了, 2002, 『物理学と神』, 集英社新書.

- 10 池内了, 2008, 『疑似科学入門』, 岩波新書.

池内了, 2014, 『宇宙論と神』, 集英社新書.

- 15 Q. 7 神様が生まれてきた順番で世界を語る手法は、『古事記』にも通じますが、あくまで物知りな老人が語る『古事記』とは違って、神が語られたことをそのまま書く、というスタンスの『神統記』は面白いなと感じました。それで権威づけができるほど、その頃、神と人との距離は近かったんですね。

A. 7 ホメロスの、例えば、『イリアス』の第1巻だけでも読めば、神々と人間の（非常に近い距離での）やりとりがわかります。

- 20 Q. 8 若者の自殺が多いのは、社会的な性向の定型というのが一般に流布していて、（一流大学に入って医者になる、等）社旗もそれが幸せだ、という風潮で動いており、ルートから外れた、と感じる若者への逃げ場というか、別の幸せの価値観を社会や個人が提示できずに追いつめられた結果だったりするのかなあと私は考えていました。今こそ哲学を学ぶべきでは！（笑）

A. 8 そこで、学ぶ哲学というのがどういうものであるかが問題だと思いますが、もし、学（問）としての哲学をまともにやっている大学で哲学を学ぼうとしたら、さらに挫折するのではないかと心配です。

- 25 [補足]

Q. & A. の中で、A. のほうでも、Q. につられて、「アエール」と「アイテール」の区別に言及できていないので、補足して説明しておきます。

授業でもみているように、哲学者によって、万物の根源として何を認めるかは違いますが、構成要素とされるものが、ほぼ出そろった後の、アリストテレスの見方では、次のようになります。

- 30 月下の世界（地上と大気圏、ということになるでしょうか）は、四大（「しだい」）すなわち、地（ゲー, γῆ, ge）、水（ヒュドール, ὕδωρ, hydor）、空気（アエール, ἀήρ, aer）、火（ピュール, πῦρ, pyr）からなり、月より上の世界は、アイテール（αιθήρ, aither）で満たされている、と考えられていました。ここでは、地上の（月下の世界の）空気（アエール）と、月より上方の世界のアイテール（aither）は、別のものです。そして、アイテールは、地上のものではないと想定されていたこと
- 35 ことから、近世になって、何か正体の分からない物質として、いろいろな役割を担わされることになった、エーテル（ether）の語源が、アイテール（αιθήρ, aither）なのです。

アイテール (αιθήρ, aither)

月 —————

火 (ピュール, πῦρ, pyr)

- 40 空気 (アエール, ἀήρ, aer)

水 (ヒュドール, ὕδωρ, hydor)

地 (ゲー, γῆ, ge)